

令和4年度シラバス（公民）

教科（科目）	公民（現代社会）	単位数	2単位	学年（系）	3学年（理系）
使用教科書	東京書籍『現代社会』				
副教材等	浜島書店『最新図説現社』、東京書籍『現代社会ワークノート』				

1 学習目標

- 1 民主主義について理論的・体系的に理解し、現代の政治、国際関係などについて客観的に理解する。
- 2 経済的事象について、時事的な問題を踏まえながら、経済社会に対する興味・関心を高める。
- 3 1～2の理解を踏まえ、現代の諸課題について、多面的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力と態度を育てる。

2 指導の重点

基礎学力の定着を図りつつ、社会の事象について、知識と関連づけて考察できるように、しっかりとした学力を身につけさせることを指導の重点とする。

3 学習計画（1単位時間：55分）

月	単元名	教材	学習活動	時間	評価方法
4 5 6	第2部 第1章 現代の経済と国民福祉 1 経済のしくみ ① 経済社会の変容 ② 現代の企業 ③ 市場経済のしくみ ④ 国民所得と経済成長 ⑤ 金融のしくみと働き ⑥ 中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦ 政府の役割と財政 2 変化する日本の経済 ① 戦後復興と高度経済成長 ② 産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③ バブル経済後の日本 ④ 中小企業と農業	教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の問題を、現代経済の問題を中心に考察する。そして、その問題の理解を深めるために経済理論や歴史的経緯を活用できるようにする。 ・プラザ合意後の日本経済の歩みを、不良債権問題、金融ビッグバン、財政危機などの今日的な問題と関連させながら理解させる。 	24	定期考査 小テスト 授業の取り組み
7 8 9 10 11	第2部 第2章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは ① 民主政治の成立 ② 基本的人権の確立 ③ 世界の政治体制 2 日本国憲法の基本原理 ① 日本憲法と三つの原理 ② 基本的人権の保障（1） ③ 基本的人権の保障（2） ④ 新しい人権と人権保障の広がり ⑤ 平和主義と安全保障（1） ⑥ 平和主義と安全保障（2） 3 日本の政治機構 ① 国会と立法 ② 内閣と行政 ③ 裁判所と司法 ④ 地方自治 4 現代政治の特質と課題 ① 選挙のしくみと課題 ② 政党と利益集団 ③ 世論と政治参加 第1部 私たちの生きる社会 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 科学技術の発達と生命倫理 4 情報化の進展と生活	教科書 副教材 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本的な原理について、その成り立ちを歴史的な観点から理解する。 ・世界の主な政治体制について理解する。 ・日本国憲法の制定過程や三大原理について歴史的な経緯を踏まえながら捉える。具体的な事例に即しながら、その特徴と問題点について理解する。 ・国会、内閣、裁判所の三権のはたらきについて、民主主義の理念との関係を踏まえて理解する。 ・地方自治の制度について、近年の動きに注意しながら、具体的な事例に即して理解する。 ・最近の選挙、政党の動きに注目し、将来の有権者としての行動のあり方を考察する。 	20	定期考査 小テスト 授業の取り組み

12	<p>第2部</p> <p>1 第1章 青年期と自己形成の課題</p> <p>1 現代社会と青年の生き方</p> <p>① 現代社会と青年</p> <p>② 青年期の発達課題</p> <p>2 ③ 自己形成と社会とのかかわり</p> <p>④ 進路と生きがいの創造</p> <p>2 よりよく生きることを求めて</p> <p>① 哲学と人間</p> <p>② 宗教と人間</p> <p>③ 近代科学の考え方</p> <p>④ 人間の尊厳</p> <p>⑤ 人間性の回復を求めて</p> <p>3 ⑥ 日本の伝統思想の考え方</p> <p>⑦ 外来思想の需要と日本人の自覚</p> <p>第5章 国際社会と人類の課題</p> <p>1 国際政治のしくみと動向</p> <p>① 国際社会の特質</p> <p>② 国際紛争を避けるしくみ</p> <p>③ 国際連合と安全保障</p> <p>④ 国際連合の役割と課題</p> <p>⑤ 冷戦とその後の世界</p> <p>⑥ 軍縮への取り組み</p> <p>2 国際経済のしくみと動向</p> <p>① 貿易と国際分業</p> <p>② 外国為替のしくみと国際収支</p> <p>③ 戦後国際経済の枠組みとその変化</p> <p>④ 対立と協調の時代</p> <p>⑤ グローバル化する経済</p> <p>3 国際社会の現状と課題</p> <p>① 地域統合の進展</p> <p>② 変容する世界経済</p> <p>③ 国際的な格差の是正</p> <p>④ 地域紛争と難民問題</p> <p>⑤ 国境を越えて広がるちきゅ規模の課題</p> <p>⑥ 日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大衆社会、少子高齢社会、高度情報社会、国際化のさまざまな問題について関心を持ち、自分自身の問題として理解する。 ・人生の中で青年期はどのような意味を持つのか、青年期の心理の特徴について理解し、一人前の人間として自立するためには何をしたらよいかを考える。 ・社会への参加について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 ・なぜ生きがいを求めようとするのか、人生における職業の意味、社会活動の意義について考える。 ・グループごとに「共生する社会実現への取り組み」についてテーマを決め、調査・資料作成・発表レポート作成などの探究学習を行う。現代社会の問題点と未来志向の意見交換などの活動を通して、共に生きる社会実現に何が必要かを考える。 	20 定期考査 小テスト 授業の取り組み
----	---	---	-------------------------------

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

必要に応じて指示する。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 資料活用の技能	④ 知識・理解
現代社会への関心を深め、積極的に理解しようとしている。	現代社会についての基本的な見方や考え方が身に付いている。	現代社会の動向を資料から読み取り、活用することが出来る。	現代社会に関する基本的知識が身に付いている。
以上の観点を踏まえ、①授業の取り組み（授業態度・学習活動への参加状況） ②提出物 ③定期考査・小テストなどから、総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

幅広い分野の知識を学び、これから社会で生きていくために必要な力を養います。大学受験だけでなく、小論文や面接、就職にも役立つことが学べますので、一緒に頑張りましょう。